



「香椎保育所」さくら組の子どもの絵「わじろひがたのなかまたち」

ご案内

第23期 和白干潟の自然観察ガイド講習会 「和白海岸の海浜植物を学ぼう！」

和白干潟には全国の干潟では2か所だけといわれる貴重な自然海岸が残っています。砂浜、アシ原、クロマツ林や雑木林、淡水湿地など干潟本来の自然の景観が残っており、干潟の生きものが豊富で、渡り鳥の渡来地にもなっています。和白干潟を守る会では、博多湾に残された和白干潟の大切さを観察会を通して伝えていきます。和白干潟の観察会で案内するガイドを育成するための講習会を開催します。今回は植物で、自然を体験して学習します。参加をお待ちします。（初心者歓迎）

●とき：5月23日（日）受付12:30 開始13:00～17:00

雨天決行 中潮 干潮13:15 満潮 19:43

●集合：和白干潟を守る会事務所

（福岡市東区和白1-14-37 海のきりえ館1階）

●講師：内田 泰三 氏：九州産業大学 建築都市工学部 教授

●参加費：300円 ●募集：20名

●持ち物：筆記具、ルーペ、飲み物

●服装：長そで、長ズボン、帽子、長靴、（雨具）

●主催：和白干潟を守る会

●お問い合わせ：TEL 090-8412-2663（山之内）

参加者はマスク着用など、コロナ対策をして来てください。



ツルナ



ハマエンドウ



2021年度 和白干潟を守る会 総会報告 (田浦 征太郎)

主な役員と事務局組織

2月27日に、2021年度の総会を開催しました。参加者は17名。山本代表が「和白干潟を守る会は今年で33年目を迎えます。昨年は世界中で新型コロナウイルス感染症が流行し、日本でも4月に緊急事態宣言が出されました。和白干潟を守る会では多くの活動が制限され、和白干潟まつりも中止となりました。

6月に緊急事態宣言が解除されてからは、感染防止対策をとりながら定例会議やクリーン作戦を実施してきました。今年こそは楽しい和白干潟まつりを開催したいですね。活動への企業や学校の支援が増え、『クリーン作戦』への参加者が増加傾向です。今後も和白干潟がぜひ『ラムサール条約登録湿地』となるように希望をもってがんばりましょう！引き続き若い人たちの活動への参加を心から待っています！」と開会挨拶をしました。

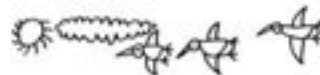
役 員	主な活動内容
会 鳥 ミヤコドリ	観察会
代 表 山本 廣子	クリーン作戦
事務局	干潟まつり
事務局長 田浦 征太郎	H P 編集・通信
会 計 山之内 芳晴	調査、写真
田辺 スミ子	記録、会計
監 事 松尾 満子	名簿・通信配布管理
松田 元	助成金、監査
	保全のつどい
	山・川・海流域連携
	資料点検



2021年度活動方針 私たちは、この方針で1年間取り組みます！

1. 和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」「クリーン作戦と自然観察」「和白干潟まつり」「学習会などの企画」を通して、多くの市民、特に若い世代や子どもたちに和白干潟の自然の大切さを認識してもらい、自然保護の気運を高める。
2. 和白干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和白干潟を取り巻く自然環境の変化について、干潟及びその周辺の生物の調査、漂着ゴミ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。
3. 貴重な鳥類をはじめとする生物多様性に富む和白干潟を「ラムサール条約登録地」とするための取り組みを強化する。博多湾の自然を壊す人工島などの公共事業には厳しい監視と関心を持って対処する。今ある自然を壊さないこと、壊れた自然は元の自然に戻すことを目指す。
和白干潟の生態系を守るために、山・川・海の流域連携に取り組み、地域の自然再生への取り組みを進める。和白干潟を守る会の活動をより広く知ってもらい、活動への参加者、賛同者を増やすために広報活動を強化する。

2020年度決算と2021年度予算



(単位：万円)

●2020年度決算

当期収入は188万円で、主な収入は会費31万円、寄付金69万円、助成金等80万円と事業収入が7万円です。当期は企業や個人から寄付を頂きました。支出は149万円で、主な事業支出は通信発行費・観察会事業費・消耗品備品費です。収支は39万円の黒字で、次年度への繰越は343万円となりました。



●2021年度予算

当期収入は189万円を見込み、支出は190万円を計上しました。会費、寄付金など貴重な収入を大事に使っていきます。

	2020年度 決算	2021年度 予算
当期収入	188	189
当期支出	149	190
収支差額	39	1
前期繰越金	304	343
次期繰越金	343	342



和白干潟を守る会の活動を紹介します！（山之内 芳晴）

守る会では様々な活動を行っています。皆様のご参加をお待ちしております。

●干潟で自然の大切さを伝える活動（観察会や干潟まつり）

学校や様々な団体の依頼を受けて、和白干潟自然観察会を実施しています。昨年は新型コロナウイルス感染予防のために春は中止となりました。1～3月と秋に6回行い、延べ384名の参加がありました。このほか毎年11月には「和白干潟まつり」を開催していますが、昨年は新型コロナウイルス感染予防のため中止にしました。



●和白干潟のクリーン作戦と自然観察

毎月第4土曜日の15時～17時に、海の広場から唐原川河口までの範囲を中心に企業や学生を含む一般のボランティアと共に清掃し、清掃後には自然観察も実施しています。昨年は毎月定例のクリーン作戦のほかに臨時の清掃も加えると年間15回行い、延べ600人が参加、1150袋のゴミを回収しました。昨年は新型コロナウイルス感染予防のため、3～5月は一般に呼びかけず守る会だけで行いました。



●和白干潟周辺の自然の調査

環境省、NPO法人バードリサーチ、JEAN（クリーンアップ全国事務局）などの依頼を受けて、年間を通してシギ・チドリ調査、水鳥調査、ゴミ内容調査に参加しました。（鳥9回、漂着ゴミ1回）



●和白干潟の水質調査と砂質調査（毎月実施）

下の表は2020年10月から2021年3月までの水質調査と砂質調査結果です。水質調査についてはCODが4の月もあり、改善傾向にあります。砂質調査については、前年度同様で浜辺側の表層酸化層が薄く悪化しています。（表層酸化層が厚いほど砂質が良いことになります）

水質調査結果 （2020年10月～2021年3月）

測定項目	単位	10月	11月	12月	1月	2月	3月
リン酸イオン（ PO_4 ）	mg / l	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
化学的酸素要求量（COD）	mg / l	4	5	4	4	5	5
亜硝酸（ NO_2 ）	mg / l	0.005	0.02	0.02	0.005	0.005	0.01
透視度	cm	100	20	50	72	90	35

砂質調査結果 （2020年10月～2021年3月）

測定項目	単位	10月	11月	12月	1月	2月	3月
10㍿地点 表層酸化層の厚さ	mm	3	3	10	6	9	15
還元層の黒色度	—	14	14	13	14	13	13
150㍿地点 表層酸化層の厚さ	mm	4	10	31	33	42	38
還元層の黒色度	—	14	13	13	13	13	14

●山・川・海の流域会議

和白干潟を守る会は、立花山を源流として和白干潟にそそぐ唐原川、この集水域全体を保全することが必要だと、流域の保全グループに呼び掛けて、2012年7月に「山・川・海の流域会議」が発足しました。立花山から和白干潟までの6団体で構成しています。2か月に1回定例会を開き、2020年1月に新春座談会を開催し、11月には「唐原川お掃除し隊」を行いました。

和白干潟を守る会へのご支援ありがとうございます！



1/25 「あいおいニッセイ同和損保（株）」様より 寄付金を頂きました。

2/5 「MS&ADインシュアランスグループホールディングス」様より寄付金を頂きました。

3/19 「（公財）イオン環境財団」様より 助成金を頂きました。

ハマダイコン アブラナ科。海岸に生える2年草。春まだ浅き1月頃から日当たりのよい海岸に、薄紫色のハマダイコンの花が咲きだします。和白干潟の海の広場付近では以前はたくさん見られましたが、近年はハマウドやハマサジに押されてか、少なくなっています。海岸やアシ原や河口に少しずつ育っています。現在比較的多く見られるのは砂洲、奈多海岸、唐の原川河口沿岸、雁ノ巣海岸です。和白干潟沿岸の春1番の花ですが、4月頃まで咲いているようです。自然海岸のある和白干潟を守り継いで行きたいですね。



ハマダイコン

ミズクラゲ



ミズクラゲ

ミズクラゲ科。傘の直径は15cmくらいですが、50cmを超えるものもあるそうです。北海道の西部以南の日本の沿岸にいるそうです。短い触手が傘縁に無数に並んでいます。花のような模様が透けて見えますが、これは生殖腺だそうです。ヨツメクラゲとも言われています。暖かくなってくると、和白干潟の沿岸に浮かんでいきます。波に押されて干潟に打ち上げられると、そのまま乾燥して丸い跡だけが残ります。打ち上げられてしばらくは臭いがします。無数のミズクラゲが波打ち際に並ぶのが、毎年春の行事のように繰り返されています。

ミヤコドリ チドリ目 ミヤコドリ科。全長45cm。絶滅危惧 類(福岡県)。

和白干潟には冬鳥として秋に訪れています。1980年代までは和白干潟が全国で唯一の定期的飛来地であったため、全国のバードウォッチャーがミヤコドリを見に来ていました。現在は東京湾などで大きな群れが越冬するようになりましたが、和白干潟の生息地としての重要性は変わりません。ミヤコドリは和白干潟のアサリを食べています。そのアサリを昨年夏から秋にかけて業者が取りつくし、大きなアサリがほとんどいなくなりました。ミヤコドリは昨秋から19羽が越冬していますが、毎年見られた和白干潟の海の広場方面にいたことが少なかったのです。このままでは和白干潟のミヤコドリは絶滅するのではないかと心配しています。業者のアサリ採取を制限する規則を作って、ミヤコドリを守ってほしいと思います。



ミヤコドリ

和白干潟と私 1

私は1949年に和白干潟のすぐそばで生まれました。沿岸には松林や広い砂浜があり、浜辺には海の家が立ち並んでいました。和白干潟は「和白子ども海水浴場」の名前で親しまれていました。春から夏にかけては県内各地から多くの方がリュックを背負って訪れていました。潮が満ちれば子どもたちは泳ぎ、引けば潮干狩りをします。アサリやハマグリ・赤貝・マテガイなどたくさんの貝をリュックいっぱいにして持ち帰っていました。エビかきをしてクルマエビも採れました。冬にはイイダコや海苔も食卓に上がりました。私は小学生の間は夏には毎日泳ぎました。姉と一緒に夜の海で泳いだこともあります。空には星が輝き、遠くには中州のネオンが輝き、暗い海には夜光虫が輝く美しい海でした。おじさんに夜の海にカーバイトを焚いてエビすくいに連れて行ってもらいました。私の心も体も和白干潟で作られたと思います。戦後の福岡の人々の命を救った生命の宝庫です。そんな大好きな和白干潟と私のかかわりを書いていきます。(山本 廣子)



(写真は1954年頃の和白干潟。沿岸に海の家が建ち並んでいます。左が私です。)



3月2日「福岡県希少野生動植物の保護に関する条例」 について要望書提出



守る会代表はじめメンバー6名で県の自然環境課にミヤコドリ保護を要望してきました。今年5月に施行の新たな条例の中の指定希少動植物にミヤコドリを加えてほしいというものです。

ミヤコドリは江戸時代より香椎潟や和白干潟に飛来していた記録があり、和白干潟は国際的に保護される「ラムサール条約」の登録湿地の候補として長年挙げられています。福岡県内におけるミヤコドリの定期的な飛来地です。

現在ミヤコドリは県の絶滅危惧Ⅱ類になっていますが、近年餌となるアサリが業者による採取によって減ってきており、ミヤコドリが和白干潟の海の広場方面に来ることが減ってきています。要望は、ミヤコドリを指定

種にすることで、アサリ乱獲の規制など和白干潟全体の保全を図ってほしいというものです。話し合いの中で指定希少動植物の指定案に対するパブリックコメントが行われていること（3月5日締切）が分かり、守る会で呼びかけて意見書を出すことにしました。

3月23日 博多湾東部海域底質改善事業について

博多湾東部の海底を耕したり、改良剤を設置する事業が2018年度より行われていることが分かり、港湾空港局みなと環境政策課に来ていただき、疑問点について説明してもらいました。エコパークゾーン環境保全創造計画（2010年策定）の一環で、実証実験を行っているとのこと。改良剤の設置では、はっきりした結果は出なかったそうです。海底耕耘（こううん）では1か月後までの調査結果で底生生物の増加が確認されたそうですが、水質悪化の指標とされるホトトギスガイが出現しています。また、耕耘をしていない箇所での調査でも生物の増加は少し少ないが同じように増加しています。長期の事後調査は行われていません。理由は海底が元の状態に戻ってしまうからだそうです。



守る会では、海底は潮の動きや風で自然に攪拌されるので人工的な耕耘は必要ないのではないか、博多湾の負荷を減らすには、人口抑制や下水の高度処理の充実が必要であることを伝えました。港湾空港局や守る会などで作っている「和白干潟保全のつどい」での説明がなかったことも指摘し、今後はちゃんと報告してもらうことになりました。また業者によるアサリの大量採取や船の違法係留について、写真を示して説明し改善を求めました。担当局の説明はあいまいな部分もあり、守る会はこれからも税金を使った（年間約1,000万円）事業について注視していく必要があります。そして和白干潟の保全について伝えていかなくてはならないと思いました。

1月16日 山・川・海の流域会議「新春講演会」

今回の講演会は「郷土の歴史を学びあう会」の党弘行氏による「立花山の歴史について」でした。立花山には1330年（鎌倉時代）から1601年の廃城まで山城が築かれ、貿易港博多の利権をめぐって幾多の攻防が繰り返されました。また、国の天然記念物のクスノキ原生林をはじめ多くの動植物が生存する豊かな自然と共に歴史的資源を有する魅力ある山です。



立花山（367m）は、昔は二神山と呼ばれ井桜山、松尾岳、白岳、大一足、小一足、大つばら、小つばらの峰からなっており、登山道の脇には当時の石垣や井戸の跡、瓦なども見ることができます。写真や地図による昔と現在の状況、登山ルートの説明、年表や山城用語の解説など詳しい説明がありました。また同会の今宮孝子氏の植物の大型パネル写真や資料の展示説明がありました。参加者15名でしたが、非常に興味深い講演会となりました。「山・川・海の流域会議」では、今回の講演を基にした立花山自然観察会の実施を要望する声がありました。（松田）

●気が付いたらあなたも電話してください！

▼海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分でゴミを拾った時
092-282-7146（港湾空港局維持課）

▼沖のアオサをとってほしい時
092-282-7153（港湾空港局みなと環境政策課）

●弱った野鳥を見つけた時 092-513-5611
092-643-3367



＊ ＊ お 願 い ＊ ＊

- 干潟でのゴルフの練習やラジコン・ドローン等を飛ばすことはやめましょう！とても危険です。
- 干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう！（ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止）
- 犬のフンの始末は飼い主がしましょう！



活動日誌

(山之内 芳晴)

●2020年12月

- 12/1 (火) 和白干潟通信136号編集会議
- 12/6 (日) 2020年度冬期シギ・チドリ調査1回目
(今津)
- 12/13 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会 福岡支部)
- 12/15 (火) 2020年度冬期シギ・チドリ調査1回目
(博多湾東部)
- 12/19 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 12/22 (火) 和白干潟通信136号編集会議



きりえ「春陽」

●2021年1月

- 1/3 (日) 2020年度冬期シギ・チドリ調査2回目
(今津)
- 1/10 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会 福岡支部)
- 1/12 (火) 和白干潟通信136号発送会
- 1/13 (水) 2020年度冬期シギ・チドリ調査2回目
(博多湾東部)・和白海域水鳥調査
- 1/16 (土) 山・川・海の流域会議「新春講演会」参加
- 1/19 (火) 観察会案内状発送会
- 1/23 (土) 定例会議
- 1/26 (火) 会計監査



●2021年2月

- 2/7 (日) 2020年度冬期シギ・チドリ調査3回目
(今津)
- 2/8 (月) 2020年度冬期シギ・チドリ調査3回目
(博多湾東部)
- 2/14 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会 福岡支部)
- 2/27 (土) 総会・臨時定例会議
和白干潟クリーン作戦と自然観察

ご案内

くすだひろこ きりえ 展

・ 和白干潟 賛歌 ・

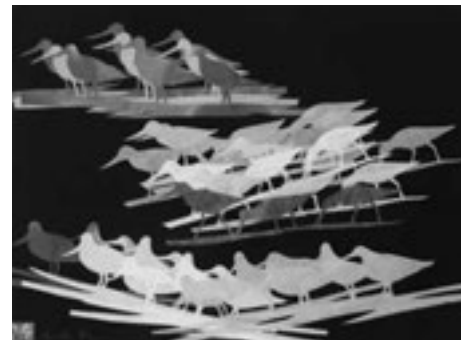
日時：5月1日(土)～5月31日(月)
11:30～15:00, 17:30～20:00

会場：レストラン「花もも」(日祝休)

福岡市東区唐原3-7-6

TEL:092-673-0563

和白干潟のきりえ作品を15点飾っています。
ご高覧をお願いします



きりえ「干潟の交響曲」

干潟のつぶやき 「干潟の地形が変わっていく！」

6～7年前からアシ原前の砂浜が波による浸食を受けており、少しずつ砂が砂洲の方に移動しているようです。砂洲前の浜辺近くにセンダンの木がありましたが、根元が波で洗われて2年ほど前にととう倒れてしまいました。それから2年経った今年の2月、探鳥会のときにアシ原前砂洲に来たら、大きなハマボウの木の根が波に洗われて大きな根がむき出しになっていました。

このハマボウの木は、2年前はアシ原の中にあっただのですが、波の浸食はアシ原にまで迫っているようです。潮の干満はありますが、特に潮流がある訳ではないのに、大きな木を倒してしまう自然の力って驚きですね。

砂浜がどんどん後退していき「アシ原がなくなる」ことがないように願うばかりです。



波に洗われたハマボウの木



トピックス

(中 島 伸 子)

第3回環境カウンセラー環境保全活動「環境大臣賞」を受賞

和白干潟を守る会代表の山本廣子は環境カウンセラー制度が始まった2年目の1997年に応募して、環境カウンセラーに登録されました。2021年3月23日に発表されました今回の受賞は、和白干潟を守る会の環境保全活動の観察会、クリーン作戦、調査、山川海の連携活動などを1つずつ取り上げて5個応募しましたので、和白干潟を守る会の受賞として喜びたいと思います。新型コロナウイルス感染防止のため残念ながら表彰式は行われず、賞状と記念品が送ってきました。



【環境大臣賞】・市民部門 山本 廣子 博多湾・和白干潟の保全に取り組み、渡り鳥の越冬・中継地として貴重な干潟の重要性を発信。昭和63年「和白干潟を守る会」を立ち上げて代表に就任し、30年以上にわたって干潟の観察会や清掃活動を行い、水質浄化や生態系の維持を図るとともに博多湾に飛来する水鳥の調査を継続するなど干潟の自然環境保全に多大な貢献をした、という講評です。

第8回エクセレントNPO大賞「市民賞」にノミネート

「エクセレントNPO大賞」は、自己評価を行いながら改善につとめる非営利組織を応援し、その活動が社会に「見える化」することを目的としています。和白干潟を守る会は2020年10月に応募し、今年2月9日に市民賞にノミネートされました。市民賞にノミネートされたのは2回目。和白干潟を守る会について自己採点して応募します。応募すると、賞の決定後に応募者全員にコメントや課題が書いて送られてきます。それをもとに会の在り方を見直すことができます。守る会はホームページも作り変えました。91件応募の中で、5団体が「市民賞」にノミネートされ、国内外の貧しい子どもを支援するなどの団体がありました。3月29日にオンライン表彰式があり、初めてのZoom参加で緊張しました。守る会は「市民賞」には選ばれませんでした。具体的な講評が送ってきたので、皆で検討していきたいと思います。(山本)



新型コロナウイルスに関する和白干潟を守る会の対応

和白干潟を守る会は、「クリーン作戦と自然観察」の一般の方への呼びかけを2020年6月から再開しています。自然観察会も10月より受け付けています。新型コロナウイルス感染防止のため以下のように取り組んでいますので、よろしくお願いいたします。体調の悪い人は参加しない。(主催者側も、参加者側も) これまでクリーン作戦では、お茶・お菓子を用意していましたが、各自で飲料を持参してください。望遠鏡(特に接眼部と持手)は消毒し、受付用品なども消毒する。各自がマスクを着用し、手を消毒する。消毒用アルコールも準備するが、団体参加の場合は団体側で消毒用アルコールを準備してください。密状態にならないように気を付ける。クリーン作戦はコロナ感染状況により急遽中止することもあります。その時には事前にホームページでお知らせします。また集合地(海の広場)で守る会会員が対応いたします。

これらの対応は当分の間実施します。日々状況が変わりますので、ご注意ください。

守る会問い合わせ窓口

ホームページ: <http://wajirohigata.sakura.ne.jp/>

入会/観察会(申込等)	山之内 芳晴	Tel090-8412-2663
クリーン作戦	田辺 スミ子	Tel090-1346-0460
広報/調査/定例会議	山本 廣子	Tel/Fax.092-606-0012
干潟まつり	中島 伸子・松尾 満子	Tel080-1701-8907



お知らせコーナー

和白干潟のクリーン作戦と自然観察のおさそい

- 4月24日(土) 15時～17時
「全国春のビーチクリーンアップ2021」参加
- 6月20日(日) (受付:9時) 9時半～11時半「ラブアースクリーンアップ」参加
集合: 和白干潟 海の広場 (東区和白4丁目海岸) 小雨決行
問い合わせ: 090-1346-0460 (田辺)



立花山を歩こう(山・川・海の流域会議主催)

- 日時: 6月12(土) 10時～14時
- 集合場所: 下原バス停(福岡市東区の下原公民館近く)
参加費: 無料(弁当持参) 問い合わせ090-2397-1424(松田)



2017年の時のようす

定例スケジュール

- **定例会議**(4/24, 5/22, 6/26)
毎月第4土曜日12時～14時 守る会事務所にて開催。

以下は参加自由です! 仲間が待ってます!

- **クリーン作戦と自然観察**
(4/24, 5/22, 6/26)
毎月第4土曜日15時～17時 和白干潟・海の広場集合
長靴があると便利。駐車場なし。
- **和白海岸探鳥会**(5/9, 6/13, 7/11)
主催: 日本野鳥の会 福岡支部
毎月第2日曜日9時～12時 JR和白駅前の和白公園集合
参加費: 一般300円 野鳥の会会員100円

会員募集中!

年会費 個人 2,000円
団体 5,000円

カンパの協力お願い

郵便振替 01720-4-23860
和白干潟を守る会

ボランティアへのお誘い

和白干潟の清掃、鳥の調査のお手伝い(車の運転、記録)、観察会のお手伝い(写真撮影)などです。

参加をお待ちしています!

和白干潟の鳥たち(その93)

ソリハシシギ(チドリ目 シギ科 / Terek Sandpiper) 反嘴鷸 [全長23cm]



ソリハシシギは旅鳥で、春と秋に和白干潟に立ち寄ります。数羽の群れで忙しく動き回り、コメツキガニを捕っています。嘴は長くて上に反り、この鳥の名前になっています。オレンジ色の短足で、とても可愛い鳥です。少し大きなキアシシギの群れと一緒に行動していることが多く、奈多のクリークや奈多海岸、雁ノ巣海岸で良く見かけます。「ピッピッピ」と笛のような声で鳴きます。東南アジアやオーストラリアなどで越冬します。渡来する羽数は少ないですが、毎年会いたい鳥ですね。

(写真撮影: 三宅 僚)

(山本 廣子)

【編集】山本 廣子・山之内 芳晴・田辺 スミ子・田浦 征太郎・中畠 伸子

《カット》「香椎保育所」の子どもたち・くすだひろこ

次号は2021年7月に発行予定

【編集後記】気温変化の激しい春先でした。季節の移り変わりを示す動植物の現象をみる「生物季節観測」の方法が変わったそうです。植物は34種目から6種目に、動物は23種目から全廃だそうです。和白干潟沿岸ではハマダイコンの花が咲き、マガモがのんびり浮かんでいます。干潟の散歩が楽しい季節です。(中畠)

